

「ワンダースノーランド～冬の森で不思議を探そう～」事業報告書

1 事業実施の背景

本事業は、子供の自然体験活動の充実及び科学的思考力の向上を目指して実施されたものである。

子供の自然体験の減少や科学的思考力の向上については、我が国における子供を取り巻く課題と認識されており、これらの課題解決に資する事業の重要性は明らかである。

国立大雪青少年交流の家は、エゾマツやトドマツ、ダケカンバなどの樹木に覆われた原生林に隣接しており、自然体験活動を行うのに適した立地条件を有している。また、これらの樹木は、自然の変化に応じて生育の仕方や形状などを様々に変えており、そのメカニズムを科学的思考によって理解する活動は、子供たちの思考力を高めるのに効果があると考えられる。

以上の考えから、冬の森の中で「不思議」を探し出し、その原因の追究をとおして、子供たちが科学的に考える機会として、本事業を実施した。

2 事業趣旨

冬の森林や原野での自然観察をとおして、自然界の「不思議」を探し出し、科学的に考える機会を得るものとする。

3 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 協力

十勝岳山麓ジオパーク推進協議会

5 事業概要

- ・期日 平成 29 年 2 月 4 日（土）～ 5 日（日）（1泊2日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 美瑛町・上富良野町内の小学校 4 年生～ 6 年生
- ・定員 20 名
- ・講師 国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊

6 目的の達成指標（アウトプット）

（1）参加者の満足度

7 広報

美瑛町内各小学校・上富良野町内各小学校へと、十勝岳山麓ジオパーク推進協議会の協力を得て、事業の案内を行った。

8 参加者人員・類型

参加者 16 名（定員比 80%）

内訳：小学生 16 名（4 年生：男子 3 名・女子 2 名、5 年生：男子 6 名・女子 1 名
6 年生：男子 3 名・女子 1 名）

9 事業日程・内容

(1) 日程

		11:00	12:00	13:30	16:00	18:30	20:00	21:00
4日		受付	開会式 昼食	冬の森林探検	つどい 夕食	測量体験説明 用具の作成	入浴	就寝準備
	6:30	7:00	7:30	9:00	11:30	12:00	13:00	
5日	起床	つどい	朝食 清掃	測量体験 白ひげの滝観察	閉会式	昼食	解散	

※運営上の都合により、プログラムを一部変更した。

(2) 概要・運営のポイント

参加者が小学生であることに配慮して、各プログラムを行う前に事前学習を行った。事前学習では、活動内容の理解を促すために森林で見られる木の種類や枝の形状などをスライドで提示し、随時参加者に質問をしながら説明を行った。これにより、参加者は活動の趣旨や内容を理解した上で活動に参加することができ、アンケートにおいても「詳しく教えてくれて、楽しかった」といった声を聞くことができた。

また、木の幹の太さや、木の高さ、雪温を測る活動では、競技的な要素を取り入れることで、参加者の関心・意欲を高めるように工夫を行った。結果、参加者は各グループで協力しながら、より太い幹、より高い木を探して積極的に活動を行っていた。

(3) 各プログラム内容

①「冬の森林探検」(150分)

【講師：国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊】

冬の森で見られる様々な自然現象について、事前にスライドで提示を行い、その後実際に原生林コースの探検を行った。「木の枝が折れているのはなぜか?」「木が一列に並んで立っているのはなぜか?」といった疑問を投げかけられ、参加者はグループで話し合いながら、考えを述べた。

また、探検の途中で、エゾマツ・トドマツ・ダケカンバの三種類の木の幹の円周を測り、競うという活動も行われた。最も大きな幹を探し出したグループは、夜の活動の中で表彰され、賞状を受け取った。



②講義「測量体験説明・用具の作成」(60分)

【講師：国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊】

日中の活動で発見された「不思議」について、講師からの解説が行われた。自分の考えどおりの結果が示されて満足げな表情の参加者や、予想外の答えに驚く参加者の姿が見られた。また、日中に行った競技の表彰も行われ、入賞した参加者は満足した様子だった。

その後、2日目に木の高さを測量するという活動を行うための事前学習が行われ、参加者は、木の高さや雪温を測る方法を学んだ後、測量に必要な用具を作成した。



③実技「測量体験・白ひげの滝観察」 (150分)

【講師：国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊】

1日目に作成した測量用具や棒状温度計を用いながら、木の高さや雪温を測る活動を行った。

事前に研修室でオリエンテーションを行い、活動の趣旨や内容について理解させた。その後、屋外に移動し、測量体験を行った。参加者は用具を用いて積極的に測量を行い、グループで話し合いながら考えを述べた。

測量体験後は、白ひげの滝を観察し、白金地区の防災がどのように行われているか、理解を深めた。



9 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

- ・満足 13 81.3%
- ・やや満足 3 18.7%

> 「満足」「やや満足」を合わせて満足度は100%となった。

(2) 参加者の声

- 知らないことを知れて良かった。
- とても楽しめて学習になった。
- 普段行かない森に行ったり、いろいろなものを作ったりして楽しかった。
- 高い木のはかりかたが分かった。
- もっと森林探検したかった。

10 事業の成果

事業をとおして、参加者には「疑問→思考→解決」といったプロセスで、冬の自然について考えさせ、学びを深めることができた。

また、森林探検や測量体験の際に、スノーシューを使用した。参加者の中には初めて使用するスノーシューに関心を持ち、深雪の上を歩くことを大いに楽しむことができた子供もいた。

以上のことから、本事業においては、その趣旨を達成し、子供たちの学びを深める機会を提供することができたと考えられる。

11 事業の課題

本事業の課題として、参加者の興味・関心や理解度のばらつきにいかに対応するかという点が挙げられる。

アンケートからは、先に見たような参加者の満足の声が多数見られたものの、各プログラムに対する参加者の声の中には「苦手なことがいっぱいあった」という声も見られた。このことから、科学的な思考を要する活動において、十分に理解できた参加者と、そこまでは至らず苦手を感じた参加者とが混在しており、今後、苦手を感じる参加者へのフォローをいかに行うかといったことが課題であると考えられる。

内容の難易度、苦手を感じる参加者への補足説明を行う人員の確保など、様々な角度から検討を行っていきたい。